



それでも未来に期待

——ベネズエラに駐在して

政治的にも経済的にも大混乱の中での駐在員生活は。

丸紅株式会社 人事部

海外危機管理担当 **林 清隆**さん

インフレと深刻なモノ不足

——林さんがベネズエラに駐在したのは2015年4月から19年3月までの4年間ですね。大変な時だったのでは。

2015年4月に赴任した頃は、まだ経済は回っていました。バラマキ政策もあってマドゥロ政権への支持率も安定していました。ところが、前年(2014年)の後半にエネルギー資源価格が世界的に下落。外貨収入の9割を原油輸出に頼っていたベネズエラ経済は、2015年以降急激に落ち込んでいきます。通貨が下落しインフレが加速。トランプ政権による経済制裁強化もそれに追い打ちをかけました。

——インフレは年率換算で十数万パーセントとか、百数十万パーセントといった報道を耳にしたことがあります。

日本人駐在員の給料は米ドル建てなので、生活に必要な現地通貨への両替は都度、必要額だけを最小限行うことにしていました。ただ、両替の手間は大変でした。20人ほどいる現地雇用社員への給料は現地通貨で支払っていましたが、いくら賃上げしてもインフレに追いつきません。ドル建てに切り替えました。

2018年8月には5桁のデノミネーション(通貨切り下げ)が行われています。

——5桁というと、日本なら10万円を「新1円」と呼び換えるようなもの。生活への影響は大きかったですよね。

特にモノ不足は深刻で、トイレトペーパー、飲料水から始まって、そのうち食品——特に野菜、医薬品、歯磨き粉に至るまで、入手が困難になりました。米国など国外に出張した際、大きなトランクを抱え、仲間の分まで調達して持ち帰る以外ありませんでした。会社の食品送付制度で日本から送ってもらうコメ・麺類・缶詰・レトルト食品などは文字通り生命線、涙が出るほどありがたかったです。食料などは幸い税関で没収されることもなく無事届いていました。しかし、国外から金品、特に米ドルを持ち込む際は、通関時に没収されたりしないよう、小分けして身体のあちこちに隠すなど、神経を使いました。

——ビジネスへの打撃となると想像もつきません。

現地通貨建ての契約などあり得ない状態でした。かといって、外貨建てならできるかということ、外貨が不足しているので新規商権開拓は不可能。投融資の資金回収もできなくなりました。駐在後半の2年間は、“忍”の一字でしたね。

街を出歩かない

——反政府デモや暴動も多発したと聞いています。

銃声を耳にするのは、しょっちゅうでした。政府の治安部隊が抗議活動参加者に使用した催涙弾のガスが事務所周辺まで迫ってきたこともあります。抗議活動者による道路封鎖のため、通常なら事務所から車で10分ほどで着く自宅へも迂回して帰らざるを得ず、30～40分かかっ